

## レファレンス事例集紹介

## 歴史編

佐賀県立図書館に寄せられたレファレンスの  
中から、選りすぐりの事例を御紹介します。



## Q.レファレンスって何？

A. 図書館職員が図書館の資料を活用して調査相談のお手伝いをし、資料や情報を提供するサービスです。

**質問** 有明海は以前、何と呼ばれていたのですか？

**回答** 「有明海」の名称が初めて記されたのは、明治39年(1906年)刊行の『佐賀県案内』の付図「佐賀県実測図」だといわれています。しかし、この図にも沖合には「筑紫海」と記されており、「有明海」と単独で使用されるようになったのは、大正4年(1915年)刊行の『佐賀県案内』以後といわれています。それ以前は、「有明沖」「筑紫海」「筑紫潟」等と呼ばれ一定ではありませんでした。また、佐賀地方の沿岸に住む人々からは、「前海」とも呼ばれています。

## 参考文献

- ①『佐賀県の地名』  
平凡社 1980年  
p.27
- ②『角川日本地名大辞典 41』  
「角川日本地名大辞典」  
編纂委員会／編  
角川書店 1982年  
p.67

**質問** 諸富～佐賀間を走っていた馬車鉄道の経路  
「明治橋」について知りたいです

**回答** 明治37(1904)年頃、裏十間川に明治橋が架橋されました。明治37年、佐賀馬車鉄道株式会社が正式に開業し2月28日に始発駅の明治橋(現松原4丁目)で行われた開通式には大隈重信も出席したといわれています。明治橋から諸富まで12人乗りの客車が10数台、1日20往復しました。また昭和3(1928)年、バスの運行が開始されるまで馬車鉄道は続きました。

## 参考文献

- ①『新ふるさと循誘』「新ふるさと循誘」編集実行委員会／編 平凡社  
2012年  
p.20-21,85-86,90
- ②『佐賀新聞にみる佐賀の八十五年』  
佐賀新聞社／編  
佐賀新聞社 1969年  
p.61-63

**質問** さがレトロ館(旧警察部庁舎)の明治時代の資料  
はありますか。

**回答** 明治20年(1887年)12月、旧城内の現在地に新県庁舎が落成した際、県警本部の建物として現在の県庁新館の場所に建築され、市民の治安にあたりました。県警本部の建物は昭和11年(1936年)に新築され、旧建造物は県蚕糸取締所として現在地へ移設されました。伝統的建築工法に洋風を取り寄せた様式は、明治建築特有のものとして建築史上価値が高いとされています。

## 参考文献

- ①『佐賀県文化財調査報告書 第153集』  
佐賀県教育委員会／編  
佐賀県教育委員会  
2002年 P.164
- ②「目で見える佐賀百年史」  
佐賀新聞社出版部／企画・編集 佐賀新聞社  
1984年 P.52

**質問** 藩政期の佐賀藩において水車の位置が確認できる資料はありますか？

**回答** 『泰国院様御年譜地取』に寛政4年(1792年)4月朔日、「水車」が「六輛」破損したことが記されています。水車が6輛も破損するとはどんな事情があったのでしょうか。

実はこの年の3月1日、雲仙の眉山が爆発し、地震と津波により佐賀藩領であった神代・諫早は甚大な被害を被りました。上記記事はこの被害を神代から藩に報告したものです。「水車」の記事の直後には「死人 10,184 人程、怪我人 643 人」と記され、未曾有の自然災害が原因だったことが分かります。

次に『直正公譜』の安政元年(1854年)12月晦日の記事を紹介します。

西洋之法則を以反射炉築立、水車を用ひて錐鑽台等之装置を設取掛相成候処、(中略)終二成功相成、右御備之大銃は勿論、其後公儀御用鉄銃をも数十門御引請、御鑄造相成候事。

上の記事に見える水車は灌漑用ではなく、動力用として導入されたことが分かります。水車が科学技術を推進する動力となりました。この水車を描いた絵図は公益財団法人鍋島報効会所蔵です。これは『佐賀城下探訪会 鍋島直正が訪ねた城下北郊 第23回』(徴古館編)に所収されている「多布施公儀石火矢鑄立所図」(p.20)に色彩鮮やかに描かれています。

一方、農村部の水車を描いた絵図も伝存し、『神埼奥山内』(郷0191,当館所蔵)に「水車床」の記載が見えます。絵図の成立は江戸時代後期と考えられますが、この文字は「柳瀬」(三瀬村)の西側の川沿いに墨書されています。「柳瀬」は三瀬小学校の藤原分校があった地区です。水車の所有者についての情報を欠くものの、水車の東対岸には6軒の人家が描かれていることから、この地区内で農業用として利用されていたのかもしれない。水車の位置が確認できる貴重な資料と言えます。

なお、この絵図は「佐賀県立図書館データベース」で公開していますので、下記 URL を御覧ください。高精細画像で公開していますので拡大しても文字は鮮明に判読できます。

なお、絵図原本は資料保存のため原則として公開は行っておりません。

参考文献

- ①『佐賀県近世史料 第1編第8巻』  
佐賀県立図書館／編集  
佐賀県立図書館 2000年 p.499
- ②『佐賀県近世史料 第1編第11巻』  
佐賀県立図書館／編集  
佐賀県立図書館 2003年 p.239
- ③『佐賀城下探訪会 鍋島直正が訪ねた  
城下北郊 第23回』 徴古館／編  
徴古館 2014年 p.20



【古地図】「神埼奥山内」(郷0191)  
<https://www.sagalibdb.jp/iiifviewer/?uid=02000130>

佐賀県立図書館のホームページで、レファレンス事例を公開しています。  
ぜひご覧ください。

「佐賀県立図書館ホームページ」→「レファレンス(調査・相談)」の  
「事例集」をクリック → 「キーワード」等を入力

<https://www2.tosyo-saga.jp/kentosyo2/reference/search.do>

【問い合わせ】

佐賀県立図書館  
司書ネットワーク課  
相談・サービス担当  
☎0952-24-2900

✓CHECK✓

